

公正な事業慣行

関連するSDGs



基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先における法令遵守についても要請しています。2009年には、国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、また2019年には「ライオン贈収賄防止指針」を策定し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

「ライオン贈収賄防止指針」の制定

ライオングループは、世界各国での贈収賄・腐敗行為に対する法規制強化の流れに鑑み、2019年に「ライオン贈収賄防止指針」を制定しました。

今後も、事業を展開する国および地域の法令等を遵守した事業活動を徹底します。

<骨子>

- ① 企業行動憲章に基づくライオングループとしての贈収賄・腐敗行為防止に対するコミットメント
- ② 贈収賄・腐敗行為等による利益の排除およびビジネスパートナーに対する協力要請
- ③ 贈収賄防止に関する統括責任者の選任とコンプライアンス体制の構築



ライオン贈収賄防止指針

<https://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/anti-bribery.php>

サステナブルで責任ある調達にむけて

当社は、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化し、責任あるサプライチェーンマネジメントを構築することが重要な課題であると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、「調達基本方針」に基づき、取引先と当

社とがサステナビリティを深化させることが必要です。

また、当社の主要な植物油原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。



調達基本方針

<https://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

● 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

当社は、原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティへの取り組みを示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン[※]」に基づくセルフチェックを毎年依頼しています。2018年は海外グループ会社であ

る韓国ライオンの取引先162社に対してセルフチェックを開始しました。今後も取引先とともにサステナブルで責任ある調達活動を推進します。

※ライオングループサプライヤーCSRガイドライン及び用語解説

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。1.人権・労働 2.環境 3.公正な事業慣行 4.消費者課題 5.コンプライアンス



日本語 <https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>

英語 <https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>

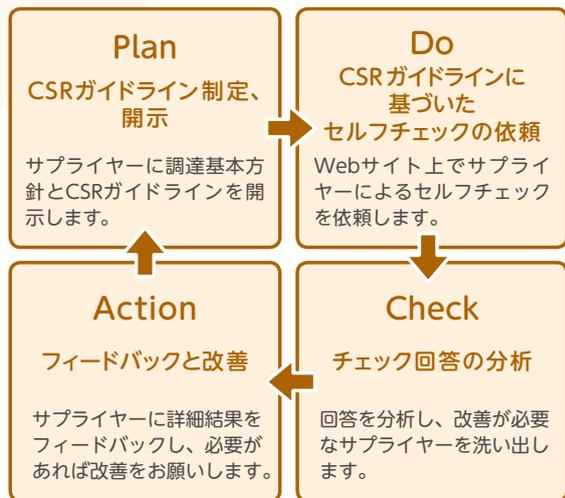
中国語 <https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>

韓国語 <https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/kr.pdf>

サステナブルで責任ある調達の取り組み年表

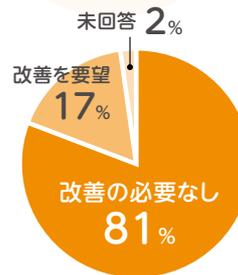
2005年	「購買に関する基本方針」を制定し、原材料や製品の適正な調達を実施。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のサステナビリティへの取り組みのセルフチェックを依頼。
2014年	CSRのセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化。
2019年	「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」を制定し、サステナブルで責任ある調達への取り組みの姿勢を明確にした。

● サプライヤーサステナビリティ セルフチェックにおけるPDCAサイクル



サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

● サプライヤーサステナビリティ セルフチェック全体集計結果(2018年) とその経過



回答率推移と目標

2016年実績	94%
2017年実績	99%
2018年実績	98%
2020年目標	100%

モニタリング数:

ライオン国内グループの原材料メーカー・生産委託先、計610社(国内:534、海外76)

2018年 結果概要

- ・2018年の実施率は98%、平均点は1~3点の3段階で2.67点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- ・未回答の15社のサプライヤーに対しては、ヒアリングなどを通じて協力をお願いしています。

持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれにとまなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠くさまざまな労使問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に、当社は2006年から参

RSPO Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員および、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続的なパーム油生産に求められる8原則と基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみをRSPO認証パーム油としている。

[www https://www.rspo.org/](https://www.rspo.org/)

画しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。2018年は2020年目標の達成に向けてRSPO認証パーム油誘導体を継続購入しました(認証比率約1割)。今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

目標

2020年:パーム油誘導体全量をRSPO認証化

コラム

持続可能なパーム油プラットフォーム 「Japan Sustainable Palm Oil Network(JaSPON)」への参画

パーム油の主要生産国であるインドネシアとマレーシアにおける環境面など、さまざまな問題を解決することを目指し、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させるため、「持続可能なパーム油ネットワーク(JaSPON)」が2019年4月に立ち上がりました。当社もパーム油の消費メーカーとして、JaSPONに加入・参画しています。

JaSPON
Japan Sustainable Palm Oil Network

Webサイトのご紹介

お取引先様とともに

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>

